

桜松神社（不動の滝）の全体概要と魅力

八幡平安代地区にあるのどかな桜松公園は、この地域で育った人たちが心のふるさとと呼ぶような場所です。駐車場を出て、樹齢 200 年の杉や松の木立の中の溪流に沿ってループ状に伸びる短い山道を進むと、少なくとも 1744 年まで歴史をさかのぼることができる神社、桜松神社に到着します。神社の名は文字通り「サクラマツ」で、この地の松の木に桜の花が咲いたという伝説に由来します。神社は縁起の良いスポットとされています。

鳥居をくぐってすぐ、年月を経て節くれ立ってはいるものの今も名高い苔むした 2 本のカエデの木が伸びています。露出した岩から継ぎ目なく幹を伸ばしているように見えるこの 2 本は、根元だけでなく、弧を描いて高く伸びるはるか頭上の幹もひとつに交わっています。長年かけてこのように結合したため、このカエデには縁結びのご利益があるとされています。

さらに少し進むと神殿があります。1 礼をして敬意を表したら、鈴についた縄を振って神々を呼び出します。さらに、2 礼し、2 回拍手を打ち、願い事を唱えてから再度 1 礼をします。桜松神社のご祭神は、瀬織津姫というこの世の穢れの浄化を司る急流の女神です。瀬織津姫を祀る日本最北の神社が桜松神社だと言われています。

細道をさらに進むと、かつて修験道僧の修行の場だった不動の滝が現れます。修験道というのは、神道と仏教が習合した山岳信仰の伝統のひとつです。不動は知恵の王である 5 大明王の中心となる尊格で、その猛々しさを怒りを救済へと変えます。3 段の滝は落差が 15 メートルあり、「日本の滝 100 選」のひとつに数えられています。ここからの山道は滝とともに下降し、シダや苔むした岩に覆われた緑豊かな溪谷を流れる清流の方向へと続きます。道なりに進んでスタート地点に戻ると、そこで一休みしたりお弁当を食べたりするのにちょうどいいベンチが木陰に置かれています。毎年 5 月 3 日には例大祭が行われ、その時期には雪解け水が流れ込んだ滝が激流となってほとばしる様子が見られます。

昔からの言い伝えによると、松の木に桜の花が咲いているのを見つけた老夫婦が溪流沿いを歩いていたところ、清流の中に瀬織津姫の美しい姿を目にしたそうです。老夫婦はたまたま滝に出くわし、妻は滝に瀬織津姫がいるのを感じました。夫のほうは不動明王がいるのを感じたと言います。そうした神道の神と仏教の神を結び付けた伝承は、珍しくありません。特に大昔の人々が神々を自然になぞらえて解釈する際に、神仏が習合する傾向が見られます。

桜松公園は、東北自動車道の安代出口から 7 キロ弱です。

桜松公園（桜松神社/不動の滝）

〒028-7542 岩手県八幡平市高畑

桜松神社の詳細については、hachimantai.or.jp をご覧ください。

岩手県全域の観光情報については、visitiwate.com をご覧ください。